

会 議 録

会議の名称	第7回小金井市保健福祉総合計画策定委員会
事務局	地域福祉課
開催日時	平成24年2月13日(月)午後7時から午後8時50分まで
開催場所	市役所第2庁舎8階801会議室
出席者	(委員) 山口委員長、竹内副委員長、伊藤委員、高氏委員、中里委員、平野委員、井爪委員、齋藤委員、矢野委員、鈴木委員、木所委員 (事務局) 福祉保健部長、地域福祉課長、障害福祉課長、介護福祉課長、介護福祉課長補佐、健康課長、作業部会職員、コンサルタント会社研究員
欠席者	森田委員
傍聴の可否	可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	2人
傍聴不可等の理由等	
会議次第	1 会議開始にあたって ① 配布資料について ② 第6回策定委員会会議録について 2 資料説明 3 各専門部会からの報告 4 次回の日程について
提出資料	1 第6回策定委員会会議録 ※ ※は事前配布 2 小金井市保健福祉総合計画(地域福祉計画)素案の修正内容について …資料(1) 3 小金井市保健福祉総合計画市民説明会結果報告 …資料(2) 4 小金井市保健福祉総合計画(素案)に対する意見及び検討結果について …資料(3) 5 専門部会の進捗状況について …資料(4) 6 第5期小金井市介護保険事業計画素案
その他	

会 議 結 果

山口委員長 事務局 事務局 事務局 事務局 事務局 山口委員長 井爪委員 事務局 矢野委員	<p>1. 会議開始にあたって</p> <p>— 山口委員長挨拶 —</p> <p>— 地域福祉課長挨拶 —</p> <p>① 配布資料の確認</p> <p>② 第6回策定委員会会議録について 内容について修正等があればお願いしたい。</p> <p>— 特になし —</p> <p>では、承認とさせていただきます。</p> <p>2. 資料説明</p> <p>※小金井市保健福祉総合計画（地域福祉計画）素案の修正内容について（資料1）の説明</p> <p>※小金井市保健福祉総合計画市民説明会結果報告（資料2）の説明</p> <p>※小金井市保健福祉総合計画（素案）に対する意見及び検討結果について（資料3）の説明</p> <p>ご意見ご質問があれば、挙手をお願いしたい。</p> <p>総合計画素案の47ページ、「民生委員・児童委員の役割」の最後の行に「関連機関と連携して」を入れてもらうようにしていたので、加筆をお願いしたい。</p> <p>ご指摘の文言を加筆する。</p> <p>自立支援協議会でパブリックコメントの概要説明を受け、協議の中で「自助」「互助・共助」「公助」に関する議論が出たので、概要をまとめたプリントを提出した。</p> <p>13ページ「計画の策定にあたって」について、1つは保健福祉総合計画第1章にある「地域福祉のあり方」が計画全体に反映してくるので、読み手は障がい者の問題や健康増進の問題にも関わってくると受け取り、小金井市の市政は「自助」、「互助・共助」、「公助」という順番のスタンスととらえるのではないかと、文章中の「まずは個人や家族が解決し（自助）」の「まずは」が誤解を招くのではないかと意見が出た。</p> <p>また、昨年の震災の教訓から食料等の準備ができていない人は大変な思いをしているのが現実で、そういう意味の「自助」は分かるが、生活全般まで広げれば問題が大きいのではないかと意見も</p>
--	--

地域福祉課長	<p>出た。</p> <p>図を見ても左から右へ流れるように見え、ピラミッド型にして底辺に行政支援、それを支える地域のネットワーク、自分も努力・工夫する部分があるという構造で説明したほうが誤解が少ないのではないかという意見が出たので、文章も含めて検討してほしい。</p>
事務局	<p>最終的には公助がやるべきところもあり、公助でできかねる部分は共助の部分で解決できるのではないかということで、順番ではなく「自助・共助・公助」がうまく連携して問題解決を図るという意図だったが、誤解を招きやすい表現と思うので検討させていただきたい。</p>
山口委員長	<p>資料3について訂正がある。意見の2ページ目、「色弱者と眼疾患患者では見やすい色と見にくい色が異なり」とあるが、「色弱者」という表現は市としてはあまり適切ではないので、「色覚に特性がある方と眼疾患患者との見え方の違い」に訂正させていただく。</p>
矢野委員	<p>13ページの図についてはなかなか難しい面もあると思うが、ご意見等があればお願いしたい。</p>
地域福祉課長	<p>3つのサイクル等にして相互に関係している形が良いかと思う。自立支援協議会では、困ったことがあればまず行政に行くと思うので、市側の姿勢を示さなければ、第2章、第3章とつながっていかないのではないかという話だった。</p>
山口委員長	<p>検討して調整させていただきたい。</p>
高氏委員	<p>これは大事な部分だが、ほかにご意見はないか。</p>
平野委員	<p>やはり、行政にしっかり支えていただいて自分たちが支える形の図が良いと思う。</p>
竹内副委員長	<p>意見を出された方は公がしっかりしてもらわなければ駄目だというニュアンスだろうか。何か問題を解決するにあたっては、まず自分が考え、及ばないことを家族や友人、最後に公的機関に相談するという形が基本だと思うので、何でも市役所に相談すれば解決するという考えであれば市民として改めるべきと思う。</p>
福祉保健部長	<p>私も賛成である。</p> <p>「自助」「互助・共助」「公助」という3つの仕組みがうまくいくように取り組みをするのが行政と思うが、その言葉が抜けていることが誤解を招く要因の1つかと思う。最後だけ市が手を差し伸べる形ではなく、自分、地域、行政のそれぞれの役割がきちんと働くような仕組みを、行政として構築するというのを盛り込めば分かりやすい文章になるかと思うが、そういう形でいかがか。</p>

竹内副委員長	異議なし。
山口委員長	その辺はとても大事な部分で第1章でもあるので、検討いただいて反映させていただく方向で良いかと思う。
平野委員	資料1、32ページの「加入促進」を「活発化」に変えたとのことだが、具体的にどうするのかと聞かれたら、どうお答えになるか。
地域福祉課長	所管課の広報秘書課が現時点では加入促進というところまで至ってない。広報秘書課は市政だよりの配布や町会長・自治会長、行政側、消防署、警察を交えて連絡会を行い、地域からの要望を聞いたり、問題提起をしていただく等を行っているが、それが活発化にどうつながるか、具体的に何ができるのかを所管課と協議したい。
平野委員	<p>それでは、提案を申し上げる。前回、武蔵野市の例を市政だよりに掲載したらどうかと話したが、ぜひ実行してほしい。加入促進が広い意味で活発化につながると思う。</p> <p>もう1つ、今、シルバー人材センターは市政だよりを1戸1戸に歩いて配布しており、自治会といかに連携するか自分なりに考えている。市政だよりを配る人は相当数おられるので、横のつながりを大事にして、そういう方をもっと使って広報・宣伝に役立ててほしい。</p>
高氏委員	広報誌を読まない人が多い。社協のパンフレットも同じだが、もっと読んでもらえばいろいろな部分で活発化してくると思うので、いかに読んでもらうかを問題視したらどうか。
鈴木委員	今回と前回の市民説明会の参加者数やパブリックコメントの意見数に違いがあるのか、教えていただきたい。
事務局	<p>細かな数字までは手元に無いが、今までの障害者計画や地域福祉計画の説明会ではそれぞれ20名以上の参加者があり、今回の市民説明会は計27名なので、まずまずの人数かと思う。</p> <p>パブリックコメントについては、前は地域福祉計画だけで10名程度、障害福祉計画も二桁以上あったが、今回は予想に反して少なく、合計5人であった。保健福祉総合計画になったことから、やはり市報等で案内する際に健康増進、障害、高齢者等の分野別の内容になっていることをもっと明確にすべきであった。</p>
矢野委員	この計画は非常に厚いので、どこを問題とするか読み取るだけでも大変な労力を要し、あきらめる人や、総論等で細かいところが見えないので、どう質問していいかわからない人もあるかと思う。
高氏委員	41ページの「福祉サービス苦情調整委員制度」はどのような内容か。

地域福祉課長	福祉サービス全般について、サービスを受ける中で苦情や要望を直接施設には言いづらいというときに、福祉サービス苦情調整委員に言っていただき、第三者的な立場で相互の意見を聞き、公平な目で調整している制度だが、認知度はまだ低いかと思う。
高氏委員	非常にいい制度だが、どこに案内が出ているか。
地域福祉課長	市報に定期的に載せ、1年間のまとめの冊子を作って報告している。利用促進のために周知に力を入れており、パンフレットには連絡先、制度の概要等を載せている。
高氏委員	相談すれば必ず反映してもらえるのか。
地域福祉課長	サービスが良くなるよう、まず、きちんと話を聞いて調査を行う。
介護福祉課長	福祉サービス苦情調整委員制度については、介護保険制度スタート時に個人契約のような形でサービス提供する制度に変わって、この制度ができ、その後、小金井市では福祉全般の苦情を受けるサービスとして制度が成り立った。介護保険の場合は、ほかに、例えば国保連合会等いくつか苦情を受ける窓口があり、「高齢者のしおり」という小冊子や介護保険制度の小冊子等で、そういう窓口を毎回案内している。
事務局	福祉サービス苦情調整委員制度のパンフレットを後ほど配布する。
伊藤委員	第2回市民説明会で、災害時要援護者支援に関する意見があったが、市報に町会と協定を結んだときの写真が掲載され、非常に効果的な方法だったと思う。
平野委員	資料2の4ページ、「支援者については、戸建であれば班長がいると思うが、自分の場合はマンションなので支援者がいない」という意見があった。マンションにも自治会はあり、この方は多分入られてないと思うが、やはり自ら進んでいろいろな意見を聞く姿勢が必要だし、町内会や班長は非常に大事であることを分かってほしい。 間もなく定年を迎えるような年齢になれば、新聞と同時に市政だよりも読み、リタイア後のことを考えるべきと思うが、読む、読まないは自己責任であることを強調したい。
高氏委員	資料を見れば、市役所をはじめ、社協でもいろいろなことをしていることが分かるが、知らない人も多いと思う。いろいろなことで困って探っている人が問い合わせる、ちょっと相談できる窓口とか、適格に分かるシステムができたらいと思う。
伊藤委員	市報や機関誌、チラシ等で情報は提供してあるので、先ほども言

平野委員	<p>われたように、個人が理解しようという努力が必要である。</p> <p>最近、転入してきた方が転入届を出しに行って、職員に「何か、お困りのことはございませんか」と聞かれ、その一言でほっとした、市役所の対応が良かったと言われていた。ちょっと声をかけてもらえば、特に転入者はいろいろ話があり、市役所に行く人も窓口で積極的に聞く態度を見せなければ、なかなかうまくいかないと感じた。</p>
井爪委員	<p>近くに越して来られた一人暮らしの方が転入手続きをしたときに、「一人暮らしになるなら、まず地域の民生委員のところに行きなさい」と言われて翌日に来られたが、やはり、ちょっとした一言が大事で、市役所の対応が良かったと感じた。</p>
山口委員長	<p>情報弱者の方は分厚いものを作っても、見なかったり、見ることができなかったり、理解しづらいということもあるので、ちょっと、お口添えがあるといいと思う。</p>
竹内副委員長	<p>8ページに「次世代育成支援行動計画（のびゆく子どもプラン）」とあり、今回は子どもに関する計画は入っていないが、一般的には保健福祉総合計画と言えば、子どもも入っていると思ってしまう。こういうふうに入れるなら、1ページ辺りに説明を入れたほうが分かりやすいかと思うので、ご検討いただきたい。</p> <p>もう1点、基本計画である「小金井しあわせプラン」の中には「福祉会館の整備23年度推進」という計画があり、耐震診断で大幅に改修工事をしなければ危険だという結果が出ている。改修には数億円、建て替えには10億円近くかかるということで市が検討しているが、市長交代等でいまだに方向が出ない。福祉会館は相当古く年間16万人が利用するが、施工業者は前原小学校の欠陥校舎を建てた業者なので、みんな心配している。上位計画に載っていて具体化する本計画には一言も入っていないのは問題と思うので、最低限、基本計画にある内容を、具体的に方向が出ているなら、その方向性を入れていただいたほうが、この計画が将来きちんと評価されるのではないかと思う。</p>
福祉保健部長	<p>平成22年3月に「のびゆく子どもプラン 小金井」が出され、子ども施策は重要な施策ということで、組織的にも新たに子ども家庭部をつくり、今の「次世代育成支援行動計画（のびゆく子どもプラン）」を策定した。確かに、他市の保健福祉総合計画には子ども施策が入っているものもあるので、この表記については検討させていただきたい。</p>

	<p>福祉会館については、耐震診断結果を受けて、庁内検討会で一定の方向性を出して市民検討委員会でもんでいただくという形で、平成23年の第1回定例会で行政報告をしたところ、市長が「建て替えも視野に入れて考えていく必要がある」という答弁をした経過がある。4月、新市長に喫緊の課題であると話して一度は耐震工事をするという方向性が出たが、11月、市長退任で方向性が出せない状況があった。</p> <p>総合計画43ページ、(4)の2つ目「施設のバリアフリー化の推進」の「また、老朽化している公共施設については、改修等によりバリアフリー化を進めます」の部分を、ご指摘いただいたと認識している。耐震工事をを行うとなれば、広い部屋を分断してブレースを入れる必要がある。高齢者や車いすの方が利用され、福祉共同作業所もあるが、耐震工事をすることでバリアフリーではなくなり、使い勝手が悪くなる工事に5億近くのお金をかけるとなれば、市民の理解が得られるかどうか、市としては懸念しているところである。利用者が不安を持ちながら利用されていることは重々承知しており、今後どうするか、庁内検討会で検討しているところなので、43ページの記述にさせていただいた。</p>
平野委員	<p>資料3の3ページ、2-4の健康増進計画の中で胃がん検診に関する意見が出ているが、現在、胃がん検診は無料の間接撮影をして異常があった場合は胃カメラ検査ということで、その費用は市が全額負担となっているので、現状のままでいいと思う。</p>
中里委員	<p>51ページでは、「がんなどの悪性新生物」による死者が小金井市は多摩地区で一番多く、52ページではフォロー検診受診者も減少しているということで、やはりこの辺りも、自分で積極的に受診することで、がんなどの死亡率が下がるのではないかと思います。</p>
地域福祉課長	<p>この計画ができ上がった段階で、例えば、要点だけをまとめた抜き刷りのようなものを作られるのか。</p>
中里委員	<p>策定が終わって印刷物になったときは概要版を作成する。 全部を見るのは大変だが、概要版があれば、こういう時はここに行けばいいとか、制度などが分かって窓口が近くなると思う。</p>
山口委員長	<p>ほかにはよろしいか。 では、ないようなので事務局からお願いします。</p>
地域福祉課長	<p>本日は貴重なご意見をありがとうございました。パブリックコメントの結果と本日いただいたご意見をもとに計画を完成させていきたい。なお、本日の委員会以降、3月初旬まで修正可能となってい</p>

福祉保健部長	<p>るので、お気づきの点等あれば事務局までお知らせいただき、今後の修正については、委員長と事務局との協議に一任させていただきたい。</p> <p>市の厚生文教委員会の中で所管事務調査というものがあり、「保健福祉総合計画にかかる調査項目について」ということで、本年3月までの1年間、協議をしていただいている。1月30日開催の厚生文教委員会に、市民説明会とパブリックコメントの内容、今までの検討状況及び今後の予定について資料を提出し、各委員の方々からは2月8日までに素案に対するご意見をいただく予定だったが、急きょ1月31日から2月9日まで臨時議会が開催されたため、今のところ4名からの提出で、ほかに2会派から出る予定があり、今週なるべく早い時期に提出いただくようお願いしている。出された意見は策定委員の皆様には別途お示するので、これもあわせてご意見をいただければと思う。</p>
事務局	<p>3. 各専門部会からの報告</p> <p>※各部会等の進捗状況、事務局担当課長より報告</p>
事務局 山口委員長 木所委員	<p>4. 次回日程について</p> <p>今回は、3月19日（月）午後7時 市役所第2庁舎8階802会議室 そのほかに何かあるか。</p> <p>かなりまとまったいい形の福祉計画の素案ができてきたと思うが、ほとんどの方が読まれないと思う。各所管でいかに市民に向けてアピールしていくかだが、先ほど話があったように民生委員やシルバー人材センター、老人会等を使って口コミでやっていくしかないかと思う。</p> <p>資料作成の経費がかなりかかっていると思うので、次回の最終委員会で大まかな収支をお知らせいただきたい。</p>
地域福祉課長 伊藤委員	<p>次回資料としてご提示する。</p> <p>以前も質問したかと思うが、総合計画に関する事務局からのお知らせで、関係団体に配布する、あるいは個人に有償か無償かという話だったが、関係団体とはどういうところか。小金井には一人住まいの方が結構多く、特定健診や保健指導等、非常にいい制度を知らない人もいると思う。詳しいことは書いてないが、糸口が分かる記述があるので、どういうところに陳列されるのか知りたい。</p>
地域福祉課長	<p>次回、配布先を一覧にしてお出しする。市民への配布について</p>

伊藤委員	<p>は、市の規定により無料ではない。</p> <p>図書館や公民館等、市民の目に触れて閲覧できるような場所に置いてほしい。</p>
地域福祉課長	<p>図書館や公民館には配置する。市役所では6階情報公開コーナーにも設置するが、皆様が目に触れて利用できる場所に置きたい。</p>
齋藤委員	<p>これはインターネットで見ることができるようになるのか。</p>
事務局	<p>市のホームページにも掲載する。</p>
山口委員長	<p>それでは、本日の会議はこれで終了する。</p>